

学校便り上美生

第8号



「構え有って構え無し」

芽室町立上美生小学校
校長 松井 眞 治

私事ですが、小学校4年から高校3年まで、細々と柔道を続けていました。週一回、3時間ほどの練習では、筋トレ、芋虫、寝技、打ち込み、乱取り等々、辛いメニューが待っていました。時々、サボってこっそり魚釣りに行ったこともあったり…なので、全然強くなれませんでした。はい。

柔道の構えの一つに自然体があります。「いつ、どこで、どんな方法で攻撃されても、それに即応しなければならない。つまり、特別な形の構えはない。これを『自然体』という。」と、柔道の先生が教えてくれました。足を踏ん張ったり、手を挙げたり、突っ張ったりして固くなるのではなく、柔らかい自然のままの姿勢。見た目では、ただ立っているだけですが、ひとたび試合となると、どんな攻めに対してでも対応できる無敵の構えなのです。それを体得するには、前述したような様々なトレーニングを積み重ねなければなりません。

小学校では、来年度から新しい学習指導要領が施行されます。前文の中で、「一人一人の児童が(中略)、～あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き(中略)～求められる。」と記載されています。このねらいの実現

のためには、「確かな学力」の育成が不可欠であると説いています。これは、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等を含めたものと定義されています。

「確かな学力」は、柔道の「自然体」の考え方に類似しています。ともに、予測不可能な相手や出来事に対して、適切に対応するためのものなのです。自然体の構えを会得するために、実に多くの練習メニューを積み上げるのと同じように、確かな学力を会得するためには、多くの学習や体験をバランス良く積み上げることが肝要です。学力も自然体も、その秘めた力は、見た目にはわかりません。正に「構え有って構え無し」なのです。

今回の、全国学力学習状況調査の結果分析から、今後、本校の子どもたちの長所を更に伸ばし、短所を少しでも向上できるよう、教職員一同、年間を通した教育課程の見直しや、日常的な授業・行事の改善を図っていきたいと考えています。小規模校という特性を武器に、子どもたちが無敵の学力を身に付け、本校で学べて良かったと思ってもらえるような学校にしていきたいと思ひます。

12月の 行事予定

学校教育目標

- よく学び、よく考える子ども
- なかよくし、助け合う子ども
- 進んで取り組み、やりぬく子ども
- いつも明るく元気な子ども



小学校HPのQRコードです

- 3日(火) 参観日
母の部スケート靴貸し出し
- 6日(金) 町児童生徒作品展(～11日)
- 7日(土) 母の部親子お楽しみ会
- 12日(木) 朝会 児童会
- 13日(金) まるごと給食
評価業務(午前授業)
- 19日(木) クラブ
- 20日(金) 清掃強化週間(～25日)
- 25日(水) 児童会クリスマス集会
- 26日(木) 2学期終業式
大掃除
- 27日(金) 冬季休業(～1月20日)
冬休み学習サポート



青少年健全育成町民集会での表彰の様子です。

【令和2年1月の主な行事】

- 1日(水) 元日
- 11日(土) 西部方面スケート大会
- 13日(月) 成人の日
- 14日(火) 上中始業式
- 21日(火) 3学期始業式
- 27日(月) 集団下校訓練
- 28日(火) CRT(～29日)

町民集会へのご協力にも感謝です！

先日、芽室町健全育成町民集会がおこなわれました。木村真之さんのあいさつで会がスタートし、凜々さんが「将来の夢」と題して立派な発表を、樹さんと蓮さんが健全育成標語で表彰を受けるなど、活躍していました。休日にもかかわらず参加してくださったみなさん、本当にありがとうございました。



編集後記 教頭 三寺康裕

早いもので、あと1か月で今年が終わります。令和元年が終わるということです。歴史的な時代の変わり目を過ごしているという実感はなかなか湧きませんが、「流行語」や「今年の漢字」など、年の瀬を思わせる情報が飛び交う中でどんな1年の終わりを迎えようか、学校としても2学期のまとめをがんばっているとこです。雪も降り寒くなりました。みなさま健やかにお過ごしくださいませ。



馬の学習！ありがとうございました！



平成31年度 全国学力学習状況調査の結果より

芽室町立上美生小学校
校長 松井 真治



国語について

- 傾向** 「話すこと・聞くこと」に関する問題に対して、全国平均を大きく上回る結果だった。
「読むこと」に関する問題に対して、全国平均を大きく上回る結果だった。
「書くこと」に関する問題に対して、全国平均を下回る結果だった。
「言語事項」に関する問題に対して、全国平均と同じくらいの結果だった。
- 対策** 目的や条件に応じて記述させる機会を増やす。
授業の板書やノート指導を系統性をもたせて指導していく。
誤字・脱字・文末表現・接続語のはたらき・敬語・言語事項の定着や習熟を図る。
基本的な事項と日常生活とを結びつけて考えていけるようにする。
読書など、文字や文に親しむ活動に継続して取り組む。

算数について

- 傾向** 「量と測定」に関する問題に対して、全国平均を大きく上回る結果だった。
「数と計算」「図形」に関する問題に対して、全国平均と同じくらいの結果だった。
「数量関係」に関する問題に対して、全国平均を下回る結果だった。
数学的な考え方を論理的に記述して答えることに課題がある。
- 対策** 具体的な場面と結び付けて考えることができるような問題提示の工夫をする。
計算や数量関係の理解を深められるよう、宿題や家庭学習との連携を深めていく。
ドリルなどの工夫で、計算問題に意欲的に数多く触れられる機会を設ける。
考えを説明する場面を設け、思考を整理し、表現できるように言語活動を充実させる。

児童質問紙について

- ICTの効果的な活用について、研修を深めていく。
学校でも家庭でも読書活動が増えるよう連携を強化していく。
意欲は全体的に高いので、きちんとした理解につながるように指導を改善していく。
問題に対してあきらめずいろいろな方法で取り組めるよう指導を強化する。